

高体連ソフトボール専門部普及

伊奈学園総合高等学校 高橋 あゆみ

☆はじめに

ソフトボールは野球とルールが似ていることもあり、ソフトボールというスポーツを知らないという人は数少ないと思う。野球に比べるとボールも柔らかくて大きいので老若男女問わず楽しむことが出来る競技である。2008年北京オリンピックで見事金メダルを勝ち取ることも出来、世界一になった。しかし、2012年のロンドンオリンピックでは正式種目から外されてしまい、ソフトボールは魅力を感じにくい状況になり、愛好家や競技者はますます減少している。現在、2020年の東京オリンピックでのソフトボール競技の復活をかけて様々なところで活動が行われている。

☆ソフトボール競技人口登録数

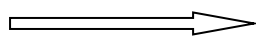
男性 89,585人 女性 45,643人 計 135,228人 (小・中を除く)

スポーツ少年団 全国 1,195団 埼玉 51団

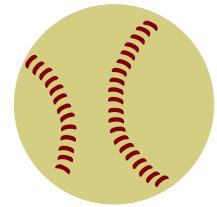
スポーツ少年団 団員数 全国 14,617人

スポーツ少年団 埼玉 男 257人 女 467人 計 724人

※埼玉県は全国でも競技人口・登録人数が多い



埼玉のレベルは非常に高く「埼玉を制すものは全国を制す」といわれていた。埼玉県予選の決勝は全国の決勝レベルとも言われていた。



☆ソフトボール競技の種別

ソフトボールは大きく3つの種類に分かれます。①競技種別②学生種別③生涯種別

①競技種別・・・クラブ・実業団・教員

②学生種別・・・大学・高校

③生涯種別・・・中学・小学生・エルデスト・エルダー・レディース・壮年・実年
シニア・ハイシニア・一般男子

※種別によってボールの種類や大きさが異なる。

(ゴムボール1号球・2号球・3号球・皮ボール)

☆ソフトボールの普及問題



- ①人数確保が大変
- ②練習場所の確保
- ③用具等の費用が高い
- ④初心者と経験者の差があるので危険 など…

☆ソフトボールの普及の可能性と活動

○2012年から中学校の体育でソフトボールが必修となった

- 授業で取り扱われることによって、ソフトボールという種目の魅力を実際に身近に感じることが出来、興味・関心をもつ生徒が増えるのではないか。
(ティーボールの普及も含め)

○マスコミやインターネットなどの取り組み

- オリンピックの競技復帰でメディア等を利用
(2008年のオリンピック決勝戦視聴率 30, 6%)

○開催場所等の検討

- 全国大会や日本リーグなどを競技人口の少ない都道府県で開催し、地域の人々にソフトボールの魅力を伝えていく。

○競技の継続年数をあげていく

- 特に高校女子の競技継続年数をあげていく。登録種別では高校が多く、特に高校女子の競技人口が非常に多い。高校女子が卒業後も競技を続けていけるような指導をしていくことが大切である。

☆おわりに

「ソフトボールという競技をどうしたら広めていくことが出来るのだろうか。」と今回改めて考えることが出来た。普段は自分自身のチームの選手や戦術のことばかり考えてしまっている時間がほとんどで、ソフトボール競技の全体のことでは考えられないのが現状である。実際高校のソフトボール部は年々登録数が減っているのので、どうにかソフトボールの魅力を多くの子供たちに伝えて、「普及→育成→強化」にもっていければいいと思う。そのためには運動嫌いの子供たちが多く中、私たち大人が何とかスポーツの魅力をいろんな場面で感じさせてあげられるような機会を増やしていくべきであると思う。